



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

## 2024年3月期 第3四半期決算説明会

取締役専務執行役員 CFO 渡邊明 | 2024年2月6日

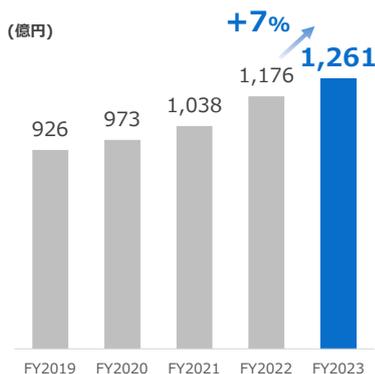
# 01 決算概要

# 第3四半期（10－12月）決算業績サマリー

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

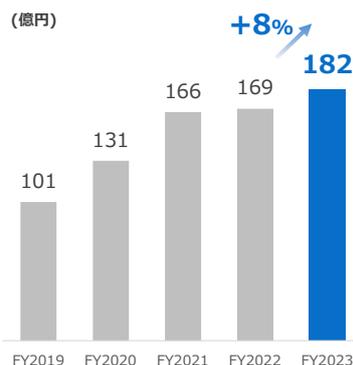
## 売上高

全セグメントで増加  
4期連続過去最高更新



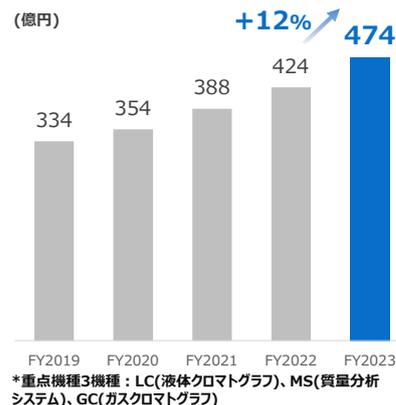
## 営業利益

23億円の成長投資を進めた中、  
売上増や航空事業の利益改善などにより  
4期連続過去最高更新



## 計測 重点機種

前年比+12%  
FY2022 4Qから4四半期連続で2桁増



皆さま、こんにちは。島津製作所CFOの渡邊でございます。本日はお忙しいところ弊社の2024年3月期第3四半期決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

第3四半期決算業績サマリーをご説明いたします。

売上高は、全セグメントで増加し4期連続で過去最高を更新しました。  
営業利益は、人材開発などの成長投資を進めた中、増収や航空の利益率改善などにより、4期連続で過去最高を更新しました。

計測の重点機種は、液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフの3機種ともに増加し、2022年度第4四半期から4四半期連続で二けた以上の成長が継続しています。なお、第3四半期の成長率は為替を除き7%成長となっております。

# 損益計算書

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

売上高、営業利益で過去最高を更新

**売上高**  
前年同期比：+85億円/+7%  
**1,261億円**

**営業利益**  
前年同期比：+14億円/+8%  
**182億円**

**営業利益率**  
前年同期比：+0.1pt  
**14.5%**

**当期純利益**  
前年同期比：+11億円/+9%  
**125億円**

	単位：億円	第3四半期(10月-12月)		前年同期比	
		FY2022	FY2023	増減額	増減率
業績	売上高	1,176	1,261	+85	+7%
	営業利益	169	182	+14	+8%
	営業利益率	14.3%	14.5%	+0.1pt	
	経常利益	152	171	+19	+12%
	親会社株主に帰属する当期純利益	114	125	+11	+9%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	141.60	147.93	+6.33	+4%
	ユーロ(円)	144.33	159.17	+14.84	+10%
	研究開発費	49	52	+3	
	設備投資額	53	43	▲10	

**減価償却費**  
47億円(前年44億円)

**為替影響額**  
売上高：40億円  
営業利益：13億円

\*記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期第3四半期決算説明会

4

次に損益計算書をご説明します。

売上高は海外事業の拡大により1,261億円、前年同期比85億円増加し、プラス7%となりました。営業利益は182億円、前年同期比14億円増加し、プラス8%となりました。増減要因については次のページでご説明します。

営業利益率は14.5%と前年同期比で0.1ポイント改善しました。経常利益は171億円、当期純利益は125億円となりました。

為替につきましては、米ドル147円93銭、ユーロ159円17銭となり、前年と比較して円安に振れています。その結果、為替による押し上げ効果は売上高で40億円、営業利益で13億円となっております。

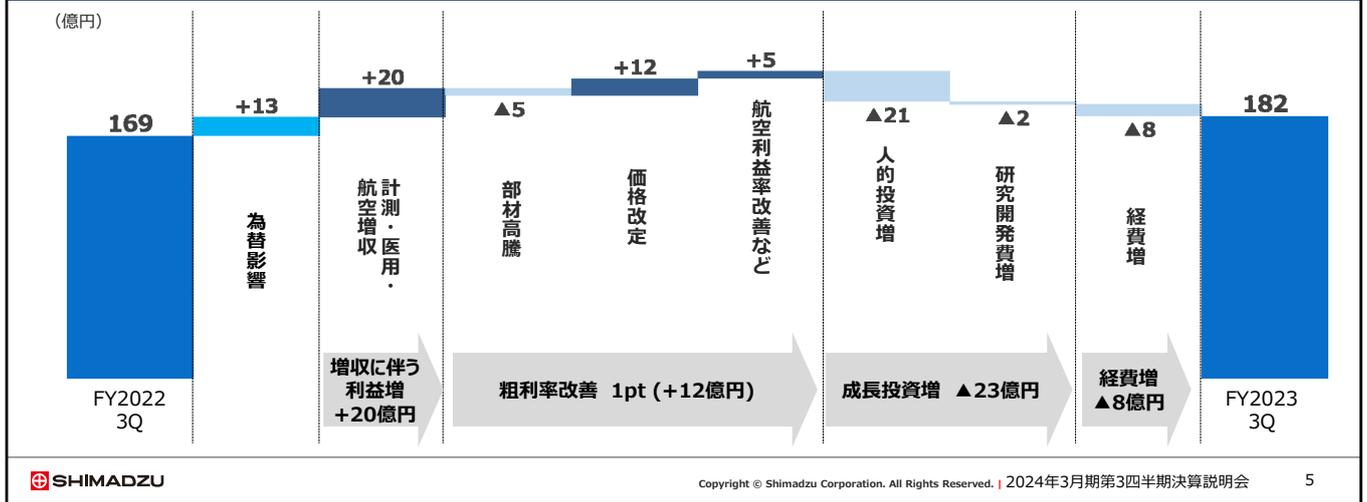
研究開発費は52億円と、前年同期比3億円増加しました。

# 営業利益増減要因（10-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

営業利益は14億円増加し182億円

【増収に伴う利益増】	計測・医用・航空の増収に伴う粗利増	+20億円
【粗利率改善】	価格改定の推進、航空利益率改善など	+12億円
【成長投資増加】	人的投資、研究開発投資などの成長投資増	23億円（利益押下げ）



SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期第3四半期決算説明会

5

続きまして営業利益増減要因についてご説明します。

為替影響で13億円の押し上げとなりました。売上粗利は、計測、医用、航空の増収により、20億円増加しました。

粗利率改善に関しましては、計測・産業を中心に部材高騰が継続し5億円の押し下げとなりましたが、価格改定の推進や航空の利益率改善などにより合計で12億円増加しました。成長投資は研究開発や人的投資を積極的に進め23億円の押し下げとなりました。経費につきましては、旅費交通費などが増加し、8億円の押し下げとなりました。

# セグメント別損益（10-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

成長投資などにより3セグメントで減益。航空は大幅増収増益

## 計測機器：増収減益

**売上高**  
・重点機種がヘルスケア・グリーン領域で増加  
**営業利益**  
・高利益率のPCR試薬減少、成長投資増により減益

## 医用機器：増収減益

**売上高**  
・注力している血管撮影システムがグローバルで牽引  
**営業利益**  
・成長投資増により減益

## 産業機器：増収・横ばい

**売上高**  
・EV用セラミック製造向けで工業炉増加  
**営業利益**  
・工業炉とTMPは増益となる一方、材料費高で油圧などが減益

## 航空機器：増収増益

**売上高**  
・防衛・民間航空ともに増加  
**営業利益**  
・増収効果に加え、採算性が改善し営業利益率が大幅に向上

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2022 3Q	FY2023 3Q	前年同期比		FY2022 3Q	FY2023 3Q	前年同期比		FY2022 3Q	FY2023 3Q	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	787	836	+48	+6%	143	141	▲1	▲1%	18.2%	16.9%	▲1.2pt
医用機器	158	173	+15	+9%	9	8	▲1	▲15%	5.6%	4.4%	▲1.3pt
産業機器	159	161	+2	+1%	18	18	▲0	▲2%	11.6%	11.2%	▲0.4pt
航空機器	58	77	+20	+34%	4	15	+12	+333%	6.2%	19.9%	+13.7pt
その他	14	14	+0	+1%	2	3	+1	+54%	8.5%	12.9%	+4.4pt
調整額	-	-	-	-	▲7	▲3	+4	-	-	-	-
合計	1,176	1,261	+85	+7%	169	182	+14	+8%	14.3%	14.5%	+0.1pt

続きましてセグメント別損益についてご説明します。

【計測】は売上高が836億円と、前年同期比48億円増加し、プラス6%となりました。営業利益141億円、前年同期比1億円減少し、マイナス1%となりました。営業利益は、高収益のPCR試薬が大幅に減少したことや、研究開発費、人件費などの成長投資が増加し、減益となりました。

【医用】は売上高が173億円と、前年同期比15億円増加し、プラス9%となりました。営業利益は8億円、前年同期比1億円減少し、マイナス15%となりました。人件費などの成長投資が増加し、営業利益は減益となりました。

【産業】は売上高が161億円と、前年同期比2億円増加し、プラス1%となりました。営業利益は18億円、前年同期比横ばいとなりました。増収となった工業炉や、価格改定を推進したTMPは増益となりましたが、材料費高で油圧機器などが減益となり、全体では横ばいとなりました。

【航空】は売上高が77億円と、前年同期比20億円増加し、プラス34%となりました。営業利益は15億円と前年同期比12億円増加し、4.3倍となりました。増収となったことに加え、民間航空機分野で好採算の補用品の売上が増加したことや価格改定により採算性が改善し、営業利益率は大幅に改善しました。

## 02 セグメント別業績

# 計測機器/機種別売上高・リカーリング比率

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

【重点機種】 ヘルスケア領域、グリーン領域及びアカデミアで増加  
 【その他機種】 グリーン領域で非破壊検査装置増加。一方、コロナ関連が大幅に減少  
 【リカーリング】 サービスは増加した一方、PCR試薬減少

## 重点機種売上高

前年同期比 +50億円/ +12%  
**474億円**

- ・ LC : ヘルスケア領域(医薬向けなど)で増加
- ・ MS : アカデミア向けで増加
- ・ GC : グリーン領域で増加

## その他機種売上高

前年同期比 ▲2億円/ ▲1%  
**362億円**

- ・ 非破壊検査装置 : EVバッテリー検査向けで増加
- ・ コロナ関連 : PCR試薬・AutoAmpが大幅減

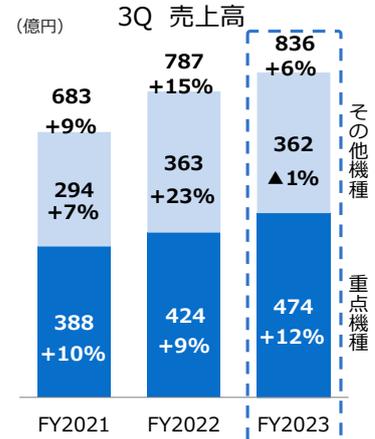
## リカーリング比率

前年同期比 ▲3pt (売上高▲2億円)  
**37%**

- ・ メンテナンス・サービスは増加
- ・ PCR試薬が大幅減



\*FY2023に販売された製品を新製品として表示



%表記は前年同期比増減率

続きましてセグメントごとに売上高・リカーリング比率についてご説明します。まずは計測機器です。

【計測】の売上高は836億円になりました。重点機種の売上高は474億円と、前年同期比50億円増加し、プラス12%となりました。液体クロマトグラフは医薬、アカデミア分野で、質量分析システムはアカデミア分野で主に増加しました。また、ガスクロマトグラフは、新エネルギー開発などのグリーン領域で増加しました。

その他機種の売上高は362億円と、前年同期比2億円減少し、マイナス1%となりました。これは、EV用リチウムイオン電池検査向けなどで非破壊検査装置が増加しましたが、PCR試薬キットが大幅に減少したためです。

リカーリング比率は、メンテナンス・サービスは増加したものの、装置売上が伸長したことや、コロナ試薬減少により前年同期比3ポイント減の37%となりました。

# 計測機器/地域別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

【日本】ヘルスケア領域、グリーン領域で重点機種が増加  
 【海外】北米：大手顧客向けLC、臨床向けMALDIが減少 欧州：アカデミア、臨床向けにMSが増加  
 中国：新エネルギー向けにGC、臨床向けなどにMS増加 その他アジア：インド、東南アジアで医薬向けにLC増加

単位 億円	FY2022	FY2023	前年同期比		3Q概況	
			増減額	増減率		
日本	1Q	209	221	+11	+5%	・医薬向けにLC、新エネルギー開発向けにGC、EV向けに非破壊検査装置が増加 ・コロナ関連が減少（1Q▲16億円 2Q▲35億円 3Q▲16億円） ・上期までは島津ダイアグノスティクス（旧日水製薬）の新規連結効果あり *2022年9月に連結
	2Q	291	321	+30	+10%	
	3Q	283	275	▲8	▲3%	
海外	1Q	408	493	+84	+21%	・海外売上高比率は67%と前年同期比3pt増加
	2Q	506	552	+47	+9%	
	3Q	505	561	+56	+11%	
北米	1Q	71	72	+1	+1%	・大手顧客向けLC、臨床向けMS（MALDI）が減少 ・医薬向けLC、PFAS向けMSは堅調
	2Q	87	91	+3	+4%	
	3Q	80	77	▲3	▲4%	
欧州	1Q	71	85	+14	+20%	・アカデミア、臨床向けにMSが増加 ・医薬向けにLCが増加
	2Q	74	94	+20	+27%	
	3Q	91	111	+19	+21%	
中国	1Q	145	191	+46	+31%	・前年のコロナ影響の反動（2022年10-11月 ロックダウン 12月 感染拡大による据付遅延） ・新エネルギー開発向けにGCが増加、アカデミア、臨床向けにMSが増加 ・医薬、受託分析向けLCが減少
	2Q	215	206	▲9	▲4%	
	3Q	186	198	+12	+6%	
その他の アジア	1Q	89	102	+13	+15%	・インド（+32%）：医薬向けLCが増加 ・東南アジア（+18%）：医薬向けLCが増加
	2Q	97	116	+19	+20%	
	3Q	110	132	+22	+20%	



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期第3四半期決算説明会

9

続きまして、計測の地域別売上高についてご説明いたします

日本は、医薬分野で液体クロマトグラフが増加したことに加え、グリーン領域でガスクロマトグラフや非破壊検査装置が増加しました。

海外全体では、欧州とその他のアジアが牽引し、海外売上高比率は前年同期比3ポイント増の67%となりました。

海外を主要地域ごとにご説明いたしますと、北米は、医薬の設備投資が回復基調にあり、PFASの需要も拡大しています。一方、一部大手顧客向けにLCが減少し、臨床向けのMALDIもコロナ禍に増加した反動が継続しています。

欧州は、アカデミアや臨床向けに質量分析システム、医薬向けに液体クロマトグラフ、グリーン領域でガスクロマトグラフが増加しました。

中国は、医薬やCRO向けで厳しい事業環境が継続しています。それにも関わらず増収となった理由は、前年のコロナ影響からの反動増に加え、注力しているアカデミア、臨床向けで質量分析システムが増加したことや、新エネルギー開発などのグリーン領域でガスクロマトグラフが増加したためです。

中国に関しては、後ほど事業環境をご説明いたします。

その他のアジアはインド及び東南アジアで、医薬向けに液体クロマトグラフが増加しました。

# 医用機器/機種別売上高・リカーリング比率

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

【X線装置】 血管撮影システム:新製品が貢献し大幅に増加  
撮影装置 :当社独自の機能が評価され増加

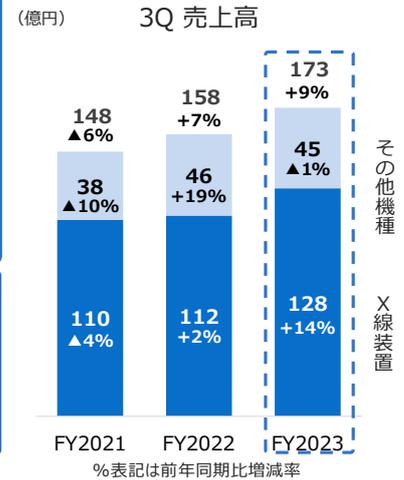
**X線装置売上高**  
前年同期比 +15億円/+14%  
**128億円**

- 血管撮影システム: AIによる画像処理技術を搭載した新製品が増加
- X線TVシステム: 業界最小クラスの新製品(F4)増
- 撮影装置: 当社独自のパワーアシスト機能が評価され増加

**その他機種売上高**  
前年同期比 ▲0億円/ ▲1%  
**45億円**

**リカーリング比率**  
前年同期比▲2pt (売上高+3億円)  
**37%**

- メンテナンス・サービスは増加
- 装置の売上が増加したことにより比率は低下



続きまして医用機器についてご説明します。

【医用】の売上高は173億円となりました。

X線装置の売上高は128億円と前年同期比15億円増加し、プラス14%となりました。注力している血管撮影システムは、AIによる画像処理技術を搭載した新製品のTrinias（トリニアス）が日本で貢献するとともに、海外でも増加しました。X線TVは業界最小クラスのFLEXAVISION（フレクサビジョン）F4、撮影装置は使用者の負担軽減を目指し、軽快でよりスムーズな操作を可能にした当社独自の機能を搭載したRADspeed Pro（ラドスピードプロ）が増加しました。

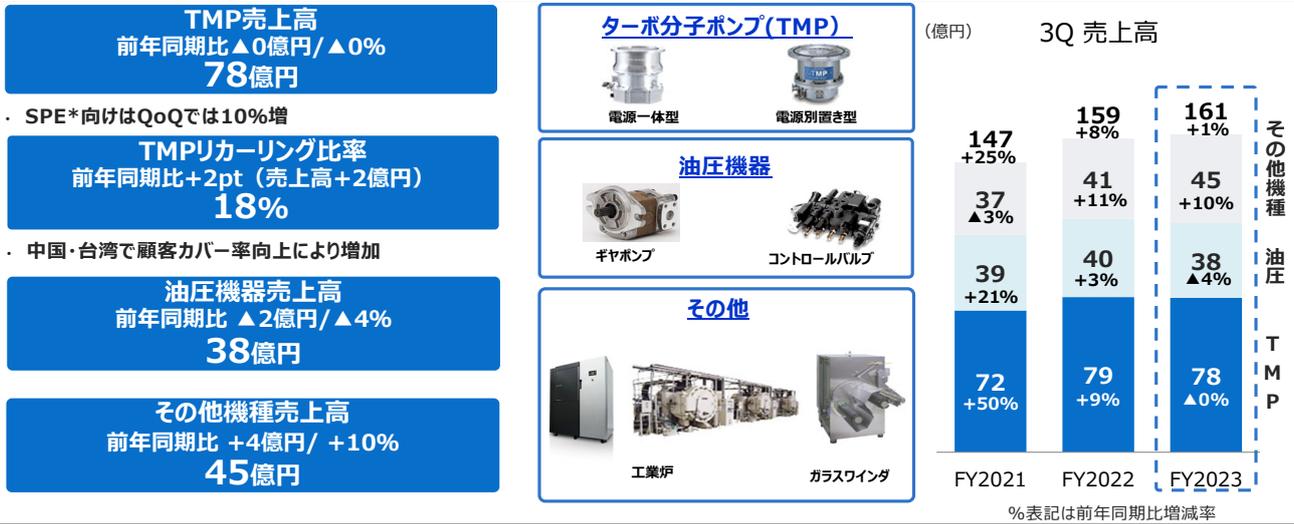
その他機種の売上高は45億円と横ばいとなりました。

リカーリング比率は、メンテナンス・サービスの売上高は増加しましたが、装置の売上高が伸長したことにより、前年同期比2ポイント減の37%となりました。

# 産業機器/機種別売上高・TMPリカーリング比率

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

【TMP】 半導体製造装置向けは減少し、グリーン関連向け（薄膜太陽電池製造装置など）が増加  
 【油圧】 国内：農機、特装車両向け減少 中国：小型建機向け減少  
 【その他】 EV用セラミック製造向け工業炉が増加



SHIMADZU

\* SPE・・・半導体製造装置

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期第3四半期決算説明会

11

続きまして産業機器についてご説明します。

【産業】の売上高は161億円となりました。

TMPの売上高は78億円と横ばいになりました。半導体製造装置向けの売上高が約20%減少しましたが、薄膜太陽電池製造装置など、グリーン関連向けが30%増加しました。なお、半導体製造装置向けは、第2四半期と比較すると第3四半期の売上高は約10%増加しており、回復の兆しがでています。また、TMPのリカーリング比率に関しては、台湾・中国でのサービス拠点開設により、カバー率が向上した結果、2ポイント増の18%となりました。

油圧機器の売上高は38億円と、前年同期比2億円減少し、マイナス4%となりました。国内で農機向け、中国で小型建機向けが減少しました。

その他機種の売上高は45億円と、前年同期比4億円増加し、プラス10%となりました。国内、中国でEV用セラミックス向けなどに工業炉が増加しました。

# 航空機器/分野別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

【防衛】 航空機用搭載品の需要拡大により増加  
【民航】 航空旅客需要の回復による航空機増産や補用品の売上増、価格改定により増加

## 防衛分野売上高

前年同期比 +12億円/ +31%

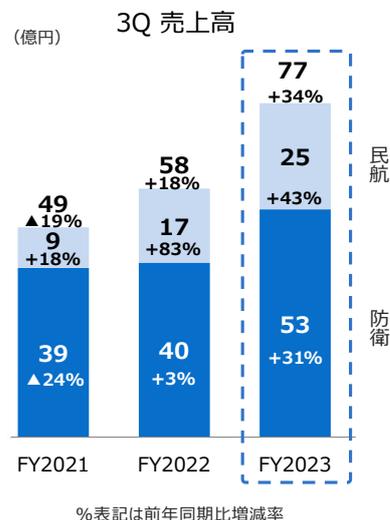
53億円

- 航空機搭載用品の需要が拡大する中、売上平準化の取組を強化

## 民間航空機分野売上高

前年同期比 +7億円/ +43%

25億円



続きまして航空機器についてご説明します。12ページをご覧ください。

【航空】の売上高は77億円と、前年同期比19億円増加し、プラス34%となりました。

防衛分野は、航空機搭載品の需要拡大に加え、売上の平準化を強化したことにより、前年同期比12億円増加し、プラス31%となりました。

民間航空機分野は、需要の回復により、航空機が増産されたことで、搭載品が増加しました。加えて、価格改定の推進などにより、前年同期比7億円増加し、プラス43%となりました。

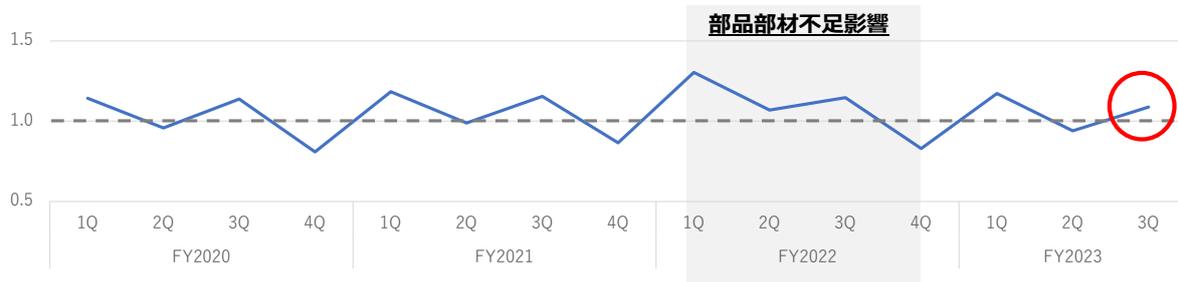
## 03 2023年度通期業績予想

- ・中国の事業環境の厳しさが増す
- ・好調が継続しているインド・東南アジアや北米の回復などで3QのBBレシオは1.1と前年同期とほぼ同じ

3Q受注 前年同期比

連結	日本	北米	欧州	中国	その他のアジア	内インド
+1~3%	+1~3%	+14~16%	+7~9%	▲20~23%	+14~16%	+27~29%

計測 BBレシオ推移



通期業績予想に関するご説明の前に、事業環境について受注の観点からご説明します。

計測について、スライドに第3四半期の受注の前年同期比を掲載していますが、中国だけがマイナス20~23%と、大きくマイナスになっています。一方、北米は医薬向けのLC等の受注が増加、インドをはじめとするその他アジア地域はプラス14~16%、内数のインドはプラス27~29%と好調が継続しています。結果として、第3四半期の受注は、連結トータルでプラスとなっています。

BBレシオは1.1と前年同期と同水準となっています。受注の傾向として、第2四半期から上がっていることがご理解いただけると幸いです。

・医薬・CRO向けは、回復にしばらく時間を要する見込み  
・臨床、グリーン、アカデミアなど、需要が拡大している分野に注力

		市場環境	施策
 <p>ライフサイエンス分野</p> <p>ヘルスケア領域</p>	<p>メドテック分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬・CRO : 設備投資停滞が継続</li> <li>・漢方薬 : 国策として漢方薬研究が進む</li> <li>・薬典 : 2025年に薬典改訂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢方薬上位企業100社向け提案強化</li> <li>・薬典改訂に向けたソリューションの早期提案</li> <li>・バイオ・核酸医薬向けアプリケーションの開発促進</li> </ul>
	<p>病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院 : 県級の総合病院向けの質量分析計の導入に向けた「総合病院機器構成標準」が発令。MS需要拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の試薬メーカーと提携し当社LCMSをOEM供給。当社LCMSによる検査を標準化しプラットフォーム化を目指す</li> </ul>
 <p>GX(グリーン)領域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リチウムイオン電池 : 研究開発強化、品質向上で需要増</li> <li>・水素エネルギー : 各地で水素ステーション建設に伴う装置需要増</li> <li>・太陽光・風力発電 : 第14次5か年計画で、再生可能エネルギーの比率を第13次比で50%増に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富な製品ラインアップにより、研究開発から品質管理まで各プロセスのニーズに対応</li> </ul>	
 <p>アカデミア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方職業訓練学校 : 「職業教育産学融合強化行動実施計画(2023-2025)」に基づいた支援拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国生産品を活用して、豊富な製品ラインアップで様々な研究のニーズに対応</li> </ul>	

計測の中国の事業環境をご説明します。

医薬、CRO市場は厳しい事業環境が継続しています。第3四半期の医薬CRO市場向けは、受注・売上ともに大きく減少し、回復まではしばらく時間を要する見込みです。そのため、次の施策を実行することで、業績の確保に繋がります。

まず、ヘルスケア領域では、拡大する臨床LCMS市場において、現地の試薬メーカーと提携し、当社LCMSをOEM供給します。当社LCMSによる検査を標準化することで、病院におけるLCMSプラットフォームの構築を目指します。

グリーン領域に関しては、EVや水素、太陽光発電などで、研究開発から品質検査まで、各プロセスのニーズに応じて、豊富な製品ラインアップを活用し、お客様のニーズに応える活動を強化しております。

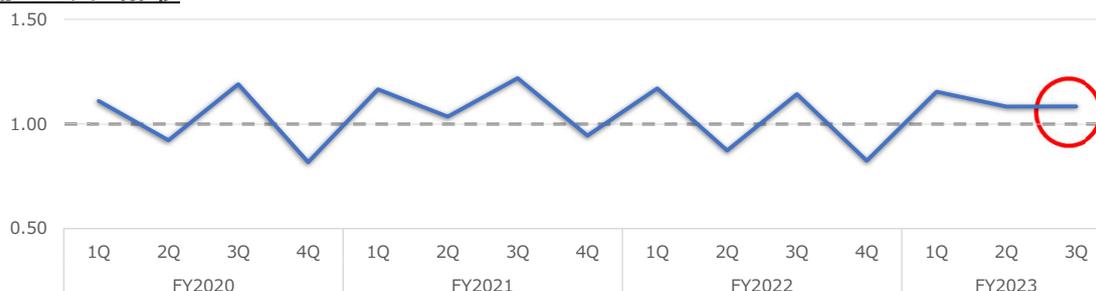
アカデミア向けには、低金利ローンが実施されている地方の職業訓練学校向けを強化し、様々な研究ニーズに対応した、中国生産品を提案していきます。当社は従来から、内陸部を含む中国全土に至るまで販売・サービス網を構築してきました。これらのネットワークを活用して、アカデミア分野で業績を確保していきます。

- ・血管撮影システムが好調に推移。増産（前年同期比1.5倍）を行い、業績拡大を図る
- ・受注も中国を除き堅調

3Q受注 前年同期比

連結	日本	北米	欧州	中国	その他のアジア
+1~3%	+1~3%	+4~6%	+20~23%	▲30~33%	+30~33%

医用 BBLレシオ推移



医用に関してご説明します。

医用は、計測同様に中国が厳しい状況となっており、3Q受注はマイナス30~33%となっています。腐敗防止運動により病院の入札件数が減り、中国の受注が減少しています。なお、腐敗防止運動は今年の6月頃まで継続する見込みです。

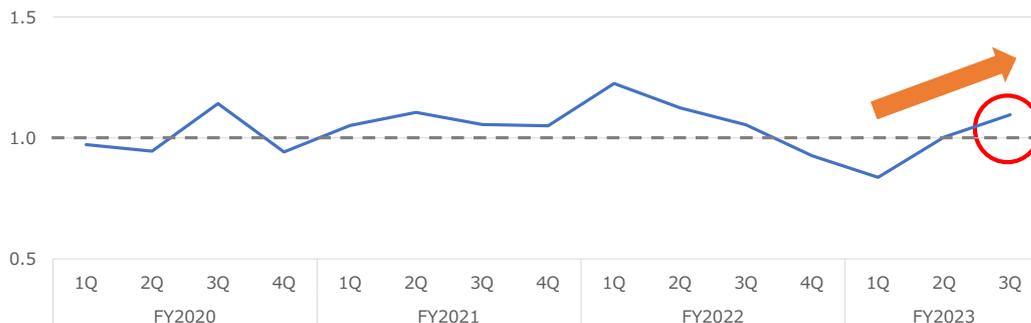
一方、中国以外の受注はすべてプラスであり、連結トータルでも受注はプラスです。第3四半期までは日本、北米でインフレ影響により、病院の設備投資が停滞していましたが、今後は徐々に回復すると見込んでいます。

TMPのBBレシオが1を上回り、SPE向けが今後回復する見通し

3Q受注 前年同期比

連結	日本	北米	欧州	中国	その他のアジア
+1~3%	▲34~36%	+24~26%	+4~6%	+44~46%	+34~36%

TMP BBLレシオ推移



続きまして、産業のTMPに関してご説明します。

前年度第4四半期から、受注は前年比マイナスが続いていましたが、第3四半期では、半導体向けが回復したことにより、プラスに転じました。また、BBLレシオは、第2四半期より回復に転じ、第3四半期では1を超えました。今後、半導体製造装置向けTMPは継続して回復すると想定しています。薄膜太陽電池製造などのグリーン向けの需要も継続し、全体的に需要は回復すると想定しており、BBLレシオは1を超えて推移すると見込んでいます。

# 2023年度通期業績予想

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

4期連続で売上高・利益で過去最高更新を目指す

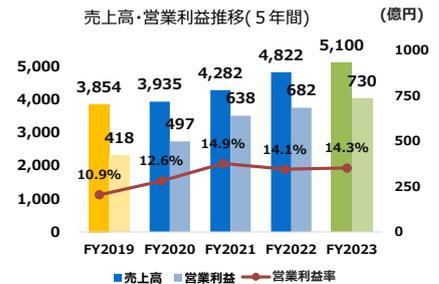
**売上高**  
前期比：+278億円/ +6%  
**5,100億円**

**営業利益**  
前期比：+48億円/ +7%  
**730億円**

**営業利益率**  
前期比：+0.2pt  
**14.3%**

**当期純利益**  
前年同期比：+30億円/+6%  
**550億円**

	単位：億円	通期		前期比	
		FY2022	FY2023 予想	増減額	増減率
業績	売上高	4,822	5,100	+278	+6%
	営業利益	682	730	+48	+7%
	営業利益率	14.1%	14.3%	+0.2pt	
	経常利益	709	740	+31	+4%
	親会社株主に帰属する当期純利益	520	550	+30	+6%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	135.51	143.00	+7.49	+6%
	ユーロ(円)	141.02	155.00	+13.98	+10%
	研究開発費	190	220	+30	
	設備投資額	225	250	+25	



減価償却費

180億円

為替感応度

米ドル 15億円  
ユーロ 3億円  
売上高： 5億円  
営業利益： 1億円

為替レートを1ドル143円(前回138円) 1ユーロ155円(前回149円)に変更

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期第3四半期決算説明会

18

続きまして、通期業績予想に関してご説明します。18ページをご覧ください。

目標は昨年11月の公表値から変更せず、売上高は5,100億円、営業利益は730億円、営業利益率14.3%、経常利益740億円、親会社株主に帰属する当期純利益は550億円で、4期連続で過去最高を目指します。

なお、為替レートを実勢にあわせ1ドル143円、1ユーロ155円に変更しました。

為替レートの変更で、売上高、営業利益でプラス要因となりますが、先ほどご説明しましたように、中国の事業環境が想定以上に厳しいことなどを勘案し、業績目標は変更しておりません。

# 2023年度通期セグメント別業績予想

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

計測、産業、航空で増収増益。主力の計測は4期連続で増収増益を計画

**計測機器：増収増益  
過去最高**

**医用機器：減収減益**

**産業機器：増収増益  
過去最高**

**航空機器：増収増益**

- 重点機種が増加することやグリーン向けに試験機や非破壊検査機が増加し増収
- 成長投資を行うが、増収に伴う粗利増、価格改定の推進などにより増益

- 前年の大口案件や補正予算案件の反動で減収
- 減収による粗利減少などにより減益

- セラミック用途向け工業炉とグリーン向けTMPなどが増加し増収
- 増収による粗利増、価格改定の推進などにより増益

- 防衛、民間航空ともに増収
- 増収に加え、価格改定などにより増益

単位: 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2022	FY2023 前回予想	FY2023 新予想	増減額	増減率	FY2022	FY2023 前回予想	FY2023 新予想	増減額	増減率	FY2022	FY2023 前回予想	FY2023 新予想	前期比 増減
計測機器	3,147	3,400	3,380	+233	+7%	576	622	600	+24	+4%	18.3%	18.3%	17.8%	▲0.6pt
医用機器	759	740	730	▲29	▲4%	55	54	50	▲5	▲10%	7.3%	7.3%	6.8%	▲0.4pt
産業機器	630	630	640	+10	+2%	54	60	65	+11	+20%	8.6%	9.5%	10.2%	+1.5pt
航空機器	240	280	290	+50	+21%	14	22	26	+12	+87%	5.8%	7.9%	9.0%	+3.2pt
その他	47	50	60	+13	+27%	6	2	7	+1	+17%	8.4%	2.7%	8.2%	▲0.2pt
調整額	-	-	-	-	-	▲23	▲30	▲18	-	-	-	-	-	-
合計	4,822	5,100	5,100	+278	+6%	682	730	730	+48	+7%	14.1%	14.3%	14.3%	+0.2pt

次は通期セグメント別業績予想についてご説明いたします。

まず【計測】からご説明します。計測は重点機種が増加することや、グリーン領域で試験機などが増加するため増収となる見込みです。営業利益は、成長投資を積極的に行いますが、増収による粗利増や価格改定の推進などにより増益となる見込みです。

【医用】は、前年の大口案件や補正予算の反動の影響により減収となる見込みです。それに伴い、営業利益も減益となる見込みです。

【産業】は、EV用セラミック向け工業炉やグリーン向けのTMPなどが増加し増収となり、営業利益も増収や価格改定により増益となる見込みです。

【航空】は引き続き、防衛・民間航空ともに需要が増加し、増収増益となる見込みです。

以上で説明を終了いたします。ありがとうございました。

背表紙



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所  
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ  
電話：075-823-1673  
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

## 補足資料

# 損益計算書 (4-12月)

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

<b>売上高</b> 前年同期比：+262億円/+8% <b>3,656億円</b>	<b>営業利益</b> 前年同期比：+50億円/+11% <b>507億円</b>	<b>営業利益率</b> 前年同期比：+0.4pt <b>13.9%</b>	<b>当期純利益</b> 前年同期比：+31億円/+9% <b>391億円</b>
--	---	--	---

	単位：億円	第3四半期累計(4月-12月)		前年同期比	
		FY2022	FY2023	増減額	増減率
業績	売上高	3,395	3,656	+262	+8%
	営業利益	458	507	+50	+11%
	営業利益率	13.5%	13.9%	+0.4pt	-
	経常利益	483	529	+46	+10%
	親会社株主に帰属する当期純利益	359	391	+31	+9%
為替	平均為替レート：米ドル (円)	136.54	143.33	+6.79	+5%
	ユーロ (円)	140.63	155.34	+14.71	+10%
	研究開発費	136	154	+18	
	設備投資額	174	164	▲ 10	

減価償却費

139億円

為替影響額

売上高：116億円

営業利益：39億円

# セグメント別損益（4-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

計測機器：増収増益  
過去最高

医用機器：減収減益

産業機器：増収増益  
過去最高

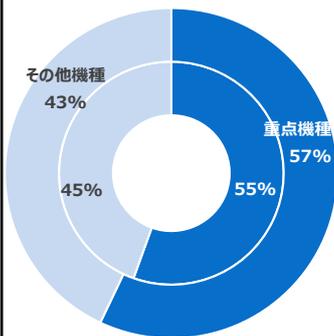
航空機器：増収増益

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2022	FY2023	前年同期比		FY2022	FY2023	前年同期比		FY2022	FY2023	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	2,202	2,423	+221	+10%	381	408	+26	+7%	17.3%	16.8%	▲0.5pt
医用機器	534	507	▲28	▲5%	38	24	▲14	▲37%	7.0%	4.7%	▲2.3pt
産業機器	463	469	+7	+1%	44	51	+6	+14%	9.6%	10.8%	+1.2pt
航空機器	163	209	+47	+29%	7	29	+22	+328%	4.2%	13.8%	+9.7pt
その他	33	48	+15	+45%	5	7	+2	+47%	9.0%	10.0%	+1.0pt
調整額	-	-	-	-	▲17	▲10	+7	-	-	-	-
合計	3,395	3,656	+262	+8%	458	507	+50	+11%	13.5%	13.9%	+0.4pt

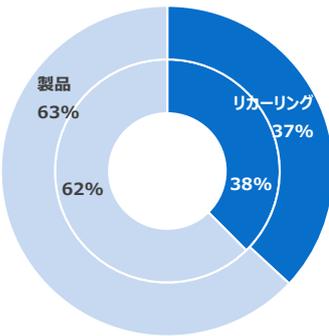
# 計測機器/各種売上高構成比率 (4-12月)

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

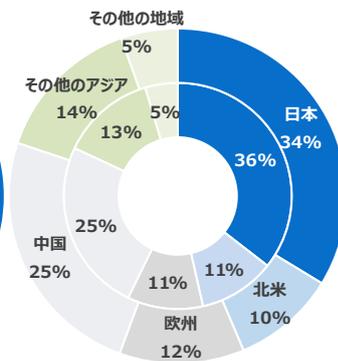
機種別



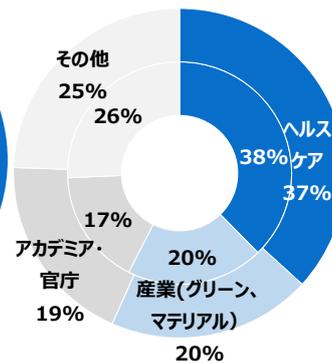
機器/リカーリング



地域別



市場別



※円グラフ外側はFY2023実績、内側はFY2022実績を示す

## 計測機器/重点機種売上高前年同期比

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- 重点機種 LC : 日本、欧州、その他アジアで医薬向けに増加  
MS : 欧州、中国で臨床及びアカデミア向けに増加  
GC : グローバルで新エネルギー向けなどに増加

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
重点機種	+24%	+10%	+10%	+3%	+11%	+2%	+14%	+9%	+25%	+13%	+18%	+13%	+12%
全体	+29%	+12%	+9%	+4%	+12%	+1%	+15%	+15%	+20%	+13%	+16%	+10%	+6%

為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
重点機種	+20%	+7%	+4%	▲3%	+6%	▲9%	▲2%	▲5%	+14%	▲0%	+12%	+8%	+7%
全体	+25%	+9%	+4%	▲0%	+8%	▲8%	+3%	+3%	+13%	+3%	+11%	+6%	+2%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

## 計測機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- ・日本：医薬向けにLC、EVバッテリー検査用途で非破壊検査装置増。コロナ関連が大幅に減少
- ・海外：欧州、その他アジアは重点機種を中心に増加。北米は大手顧客向け減少

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	+26%	+12%	+4%	+3%	+9%	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%
北米	+35%	+12%	+2%	+9%	+13%	▲2%	+12%	+20%	+22%	+13%	+1%	+4%	▲4%
欧州	+28%	+17%	+9%	▲2%	+11%	+13%	▲1%	+18%	+28%	+14%	+20%	+27%	+21%
中国	+24%	+9%	+9%	▲2%	+10%	▲14%	+36%	+6%	+49%	+17%	+31%	▲4%	+6%
その他のアジア	+27%	+10%	+18%	+14%	+17%	+37%	+25%	+24%	+18%	+25%	+15%	+20%	+20%
インド	+4%	+3%	+4%	+12%	+6%	+50%	+22%	+26%	+8%	+23%	+27%	+14%	+32%

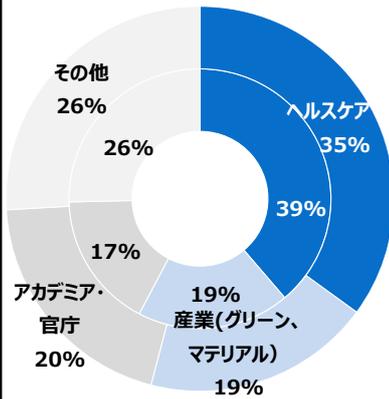
為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	+26%	+12%	+4%	+3%	+9%	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%
北米	+31%	+7%	▲7%	+0%	+7%	▲16%	▲9%	▲3%	+6%	▲5%	▲4%	▲1%	▲8%
欧州	+15%	+11%	+4%	▲4%	+5%	+8%	▲8%	+7%	+19%	+6%	+11%	+13%	+10%
中国	+22%	+5%	▲0%	▲12%	+4%	▲28%	+9%	▲14%	+31%	▲3%	+24%	▲9%	+2%
その他のアジア	+22%	+6%	+10%	+6%	+10%	+20%	+4%	+4%	+6%	+8%	+10%	+15%	+15%
インド	+2%	▲0%	▲3%	+3%	+0%	+27%	▲2%	+2%	▲6%	+2%	+20%	+9%	+26%

※インドはその他のアジアの内数

# 計測機器/市場別売上高比率（10-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

## 市場別売上高構成比



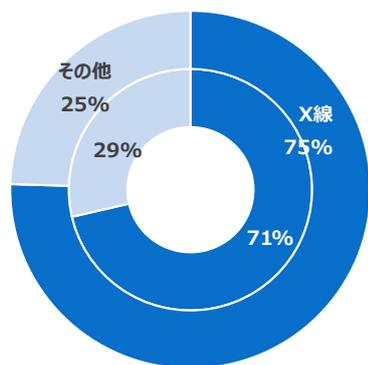
市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2022	FY2023		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	39%	35%	▲4%	・中国で医薬、CRO向けが大幅に減少 ・日本でPCR関連減少 ・日本、北米、欧州、その他アジアで医薬向け増加 ・欧州で臨床向け増加
産業関連 (グリーン、マテリアル) ●化学・素材 ●電機 ●自動車	19%	19%	+6%	・グリーン向け（EV,新エネルギー関連）にGC、非破壊検査装置が増加
大学・官公庁	17%	20%	+23%	・欧州でアカデミア向けにMS、GCが増加

※円グラフ外側はFY2023実績、内側はFY2022実績を示す

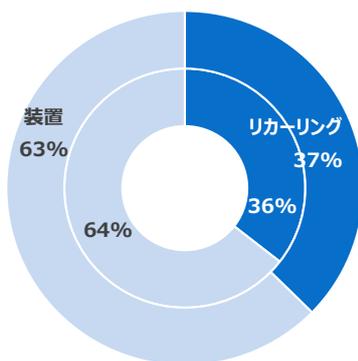
# 医用機器/各種売上高構成比率（4-12月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

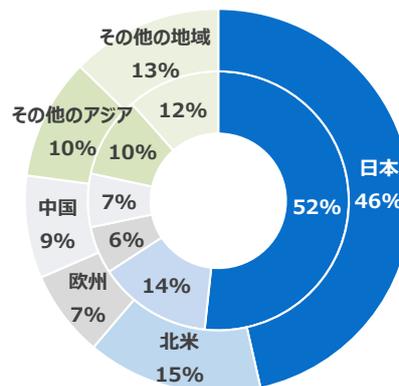
機種別



機器/リカーリング



地域別



※円グラフ外側はFY2023実績、内側はFY2022実績を示す

# 医用機器/地域別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

単位 億円		FY2022	FY2023	前年同期比		3Q概況
				増減額	増減率	
日本	1Q	94	71	▲23	▲24%	新製品の血管撮影システムが増加 業界最小クラスのX線TVが増加 当社独自のパワーアシスト機能が評価され一般撮影が増加
	2Q	111	88	▲23	▲20%	
	3Q	71	77	+5	+7%	
海外	1Q	70	73	+2	+3%	海外売上高比率は56%と1pt増加
	2Q	101	102	+1	+1%	
	3Q	86	96	+10	+11%	
北米	1Q	21	17	▲4	▲18%	血管撮影システムが増加 X線TVは注力している近接型は堅調だが、遠隔操作型が減少
	2Q	30	33	+3	+11%	
	3Q	25	24	▲0	▲2%	
欧州	1Q	8	9	+1	+16%	東欧で血管撮影システムが増加
	2Q	12	11	▲1	▲7%	
	3Q	12	17	+5	+41%	
中国	1Q	11	14	+3	+24%	血管撮影システムが増加
	2Q	12	17	+5	+38%	
	3Q	12	13	+1	+7%	
その他の アジア	1Q	13	16	+3	+20%	インド、東南アジアで血管撮影システムが増加
	2Q	23	17	▲7	▲28%	
	3Q	18	19	+2	+10%	

## 医用機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- ・国内：X線3機種ともに増加
- ・海外：血管撮影システムを中心に増加

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%
北米	+3%	▲16%	+11%	+14%	+2%	+4%	+52%	+21%	+28%	+26%	▲18%	+11%	▲2%
欧州	▲13%	▲39%	▲33%	▲12%	▲27%	+5%	+61%	+2%	+33%	+22%	+16%	▲7%	+41%
中国	▲25%	+3%	▲11%	▲10%	▲11%	+12%	▲12%	+5%	+23%	+6%	+24%	+38%	+7%
その他のアジア	+16%	+7%	+26%	▲22%	+4%	+10%	+16%	+7%	+19%	+13%	+20%	▲28%	+10%

為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
日本	+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%
北米	+2%	▲19%	+2%	+5%	▲3%	▲12%	+22%	▲3%	+11%	+5%	▲23%	+6%	▲6%
欧州	▲21%	▲42%	▲36%	▲14%	▲31%	+0%	+50%	▲8%	+22%	+13%	+7%	▲18%	+28%
中国	▲27%	▲1%	▲18%	▲18%	▲16%	▲6%	▲30%	▲16%	+7%	▲12%	+17%	+32%	+3%
その他のアジア	+15%	+5%	+18%	▲28%	▲0%	▲2%	▲4%	▲11%	+7%	▲3%	+14%	▲31%	+6%

## 産業機器/機種別売上高前年同期比

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

**TMP** : SPE向け減少、グリーン関連向け（太陽電池薄膜用途など）が増加

**油圧** : 国内で農機・特装車両向け、中国で小型建機向けが減少

**その他機種** : EV用セラミック製造向け工業炉が増加

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
TMP	+16%	+38%	+50%	+27%	+32%	+20%	+22%	+9%	+1%	+12%	▲3%	+0%	▲0%
油圧	+37%	+37%	+21%	+5%	+24%	▲1%	+1%	+3%	+10%	+3%	+10%	+8%	▲4%
その他	+33%	+32%	▲3%	+18%	+17%	+17%	+12%	+11%	+24%	+16%	▲2%	+2%	+10%

為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
TMP	+13%	+35%	+44%	+22%	+28%	+11%	+11%	▲1%	▲6%	+3%	▲7%	▲4%	▲4%
油圧	+34%	+34%	+18%	+3%	+21%	▲6%	▲4%	▲2%	+7%	▲1%	+9%	+7%	▲6%
その他	+32%	+30%	▲6%	+14%	+15%	+7%	+1%	+2%	+17%	+7%	▲4%	+1%	+8%

# リカーリング比率

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

計測 : メンテナンス・サービスは増加したものの、コロナ試薬減少や装置販売増により減少

医用 : メンテナンス・サービスが増加

TMP : 中国・台湾で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカーリング売上高 前年同期比	+33%	+16%	+4%	+6%	+13%	▲6%	+5%	+21%	+11%	+10%	+10%	+3%	▲4%
リカーリング比率	38%	35%	35%	35%	36%	39%	36%	40%	33%	37%	39%	35%	37%

医用	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカーリング売上高 前年同期比	+14%	+9%	+2%	+1%	+6%	▲2%	+3%	+0%	+3%	+3%	▲3%	▲7%	+1%
リカーリング比率	38%	35%	39%	32%	36%	36%	32%	39%	30%	34%	42%	34%	37%

TMP	FY2021					FY2022					FY2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q
リカーリング売上高 前年同期比	+18%	+11%	+15%	+5%	+12%	▲1%	▲6%	+4%	▲17%	▲4%	▲9%	▲8%	+10%
リカーリング比率	17%	17%	15%	15%	16%	15%	14%	16%	13%	15%	15%	14%	18%

※為替影響を除外